

## 「不易流行」と「時間軸／空間軸」

大正大学人間環境学科 学科長  
大正大学人間環境学会 会長  
落合 崇志

急加速度的に動き変化していく社会のなかで、環境は今まさしく大きくパラダイムの転換が求められつつある分野となっています。その「環境」を学ぶうえで、新たな視点と忘れてはならない視点はいったい何か？と自問自答を試みてみました。

「不易流行」という、松尾芭蕉による四文字熟語があります。周知のことと思いますが、あえてこの言葉を振り返ってみましょう。「不易流行」は、「不易＝不変のもの＝本質」であり、「流行＝状況に応じて変わりゆくもの」といわれています。

一方で、すべての社会的事象は、時間軸／空間軸の視点から、さまざま検証考察を試みることができます。

したがってこの「不易流行」と「時間軸／空間軸」とをクロスオーバーさせることによって、社会の真相と展開状況とがより良く理解でき得る、と考えることができます。

人間環境の研究を展開するうえで、この「不易流行」と「時間軸／空間軸」を加減乗除（ $+$ ・ $-$ ・ $\times$ ・ $\div$ ）施してみ、新たな研究上の思考を導き出していくことが必要です。なぜなら多岐多様な生活を営むうえで、環境ニーズに個人と社会とがいかに対応していくか、今まさに思考し実践していくべき時になっているからです。つまり「今のいまから・・・」な状態なのです。

この人間環境学科をたちあげる時、私たちは以下のコンセプトを掲げました。

「本学の建学の精神と本学が持つポテンシャルを最大限活かし『共生社会』の構築にむけ『人間環境学科』を設置しました。…人間環境学科では、『生活者の営み』をみつめ『人間環境』を基軸に『サステナビリティ』の観点から課題に向き合い、環境をより良くするルートマップを描くことのできるコミュニティの創造者たる人材の育成することをめざしています。…『共生社会』の構築にむけ、環境の保全やコミュニティの再生、文化の継承とあらたな創造への取り組みを重視できうる、環境コミュニティ実践者＝環境人材としてのプロフェッショナルを養成します。…『サステナビリティへの理解と実践可能な市民』となるべく、環境思考、環境行動、問題解決等を、学生とともに学び構築していきます。」

大正大学の教育体系の中に「環境」が位置づけられてから、2018年には10年目に入ろうとしています。

今まさに、パラダイムの転換期。

大きくうねる外洋を探る「不易流行」。

知恵と慈悲の実践を担保する「時間軸／空間軸」。

大正大学人間環境学への航海図は、その第二幕を描きあげるときにきています。現在がその「今のいま・・・」なのです。

人間環境学科の教員たちによる「不易流行」と「時間軸／空間軸」をクロスオーバーさせた不断の研究の努力によって、この人間環境論集が、今現時点での人間環境学を描くその一石となることを、期待してやみません。